

【資料①】

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和5年度第3回加東市部活動あり方検討委員会			
開催日時	令和5年12月21日(木) 19時00分から20時35分まで			
開催場所	加東市役所2階 201会議室			
議長の氏名 (委員長 森田啓之)				
出席及び欠席委員の氏名				
〔出席〕 12名 森田啓之委員 中原公寿委員 竹内守男委員 山平康弘委員 三村勇委員 藤本進委員 伊藤賢吾委員 平川真也委員 岸本善仁委員 岸本大介委員 家本典子委員 岸本孝司委員				
説明のため出席した者の職氏名				
なし				
出席した事務局職員の氏名及びその職名				
こども未来部 参事兼学校教育課長 井上聰 学校教育課 係長 郡龍仁				
議題、会議結果、会議の経過及び資料名				
〔議題〕 (1) 今後の課題や取組等について (2) その他				
〔会議結果〕 (1) 今後の課題や取組等について ・資料をもとに、今後の加東市における部活動地域移行の全体スケジュール案について情報共有と協議。 ・地域展開する際のパターンイメージ案をもとに、意見交換。 (2) その他 ・第4回2月16日(金)に開催予定。				

[会議の経過]

1 開会

(事務局)

ただいまから令和5年度第3回加東市部活動あり方検討委員会を開会いたします。

以後の進行を委員長にお願いします。

(委員長) [挨拶]

これまで、国や県の動き、そして、市内の部活動の現状について情報共有等をしましたが、今回は、加東市の地域展開に向けたスケジュール案について議論します。

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

[資料2]について提案。

- ・モデル事業の実施案 令和6年度の総体後から
各中学校と義務教育学校で1種目ずつモデル事業への取組
- ・地域展開の拡充案 令和7年度の総体後から
- ・地域展開案（土日） 令和9年度の総体後から
- ・令和6年度の予定 教員や保護者への説明、競技種目による地域展開の形態を検討
- ・令和7年度の予定 モデル事業の成果と課題を検証、拡充種目の検討
- ・現在の中学校1年生→令和7年度3年生 部活動の形が大きく変わらないような形
で実施

[資料3]について説明。

・活動パターン案を例示

パターン①：校区に関係なく、同じ種目の子どもたちがどこかに集まって、地域活動として活動するというようなパターン

パターン②：平日に部活動しながら、休日は違う種目の地域活動、或いは同じ種目の地域活動、学校の部活動に続いて、休日については、地域の活動に参加する

パターン③：ある一定の期間にオフシーズンを設け、そのシーズンは地域活動に参加する

パターン④：平日も休日もどちらも地域活動に参加する

(委員)

こういうパターンを組まれて展開していく中で、これは駄目だから、次はこちらにしましようとなると、子どもたちが逆に戸惑うのではないかと思います。

だったらもう始めから、令和11年度に向けた平日も含めた考えの中で進めていく方がいいと思うので、例えばパターン④だったら、初めから地域活動するとか、委託業者に任せるとか、スポーツ施設に委託するとか、学校内で嘱託の人を雇用して、平日から休日まで全部指導するとか、そういうのを一番最初に決めた方がいいと思います。

(委員)

令和6年度総体後からのモデル事業実施とありますが、このモデル事業はどういうイメージを持ったらいいですか。

(事務局)

まずは土日から地域展開を考えていますので、土日に先生方ではなくて、地域人材の方とか、部活動指導員が入って指導するイメージです。

(委員長)

つまり、仮の案だと思いますが、土曜日、もしくは日曜日での活動というのは、学校の教員がタッチしないという形のものということですよね。

(委員)

令和6年度総体後ということになれば、もうあと半年後の話になります。例えば、公式戦1つとっても土日がメインで、それを開催する主体もそれぞれあります。開催要綱等も、変わらない状況が予想されます。そういったところへの対応は、どんなふうに考えたらいいのかとは思います。

(委員)

例えば、小学校6年間一生懸命柔道して、中学校で部活動がないからサッカーして、また高校に入って柔道やる子もいる。やりたい種目がはっきりしている子ばかりなら対応しやすいし、土日は他の文化系をやりたいというように、ある程度選択肢を広げていかなくてはならないと思います。

あくまでも実施案ですので、その時の6年度の流れを見てみたらいいと思います。

(委員長)

学校の先生の異動や子どもの数で部活が左右されないように考えようという趣旨なので、他市へ求めていってしまうということが起こらないように、市で環境を整えられなかいかというのも含まれると思います。

そういう意味では、部活動の今ある種目にとらわれないというのは、何らかの形で設定したり提供したりしていく必要があると思います。

全部の条件がそろって状況を見てから取り組むのではなく、先生が苦しんでいる種目でかつ個人種目、そして地域で受け入れてくれそうなものを、学校と相談しながら種目を決めましょうということですので、本当に種目は案だと思ってください。

まずは取り組みながら、出てきた課題を検証して広げていき、実践例として出さないと、大人の意識も子供の意識も変わりません。

県内でも、完全にすべてのものを学校から出しますと宣言した自治体が、今もうすでに3つほどあります。

令和8年度に向けて、地域の資源をもう1回掘り起こす。できなかったときは、学校部活動と同じことは無理だと具体的に言わざるをえないし、一方では準備が丁寧に整ってからやっていこうとすると人間は先送りするので、最後の形態はこうだと、そこに向けて、少なくともこんな形でやっていこうという議論をした方がいいと思います。意外と、先進的にやっているところでは、指導者が変わることに、大人よりも子供はあんまり抵抗ないですよ。

学校の先生と地域の方は違う、どっちがいい悪いではなくて、それぞれの良さを含めて、どう考えていくかというところで遠慮のない議論をいただけたらと思います。

(委員)

やはり、実施種目も大体スポーツでまとまっていますから、文化の方もBパターンみたいな感じで最終的なゴールに向かって考えていった方が取り組んだらまとめやすいと思います。まずこの案で進んでいただいて、どうしても課題が出てくると思います。スポーツが苦手な場合の受け皿に、それこそ囲碁、将棋、ダンスとか、そういうハイブリッドな部活動は、やっぱりとても斬新で面白いです。

今までにとらわれない地域活動というのが、何かキーワードになりそうな気がします。ちょっとワクワクを見せられるような、地域展開のイメージをしてもらった方が、保護者も子供たちも、何か期待に溢れるような活動になるような気持ちも持ちつつ、進めていけると良いと思います。

(委員)

先ほど4パターン出されて、代表的な案いうことですよね。

地域移行に関する実践的研究事例集を参考にして4つ選んだのか、それとも、例えば政府とかが勧める4つに選ばれたのか。それと、モデル地区を提案した理由を聞きたいです。

(事務局)

こちらのパターン4つは、その事例集を参考にしたり、加東市内の中でどんな形ができるかと考えたりしました。

例えば、実際、今の段階でも合同チームでチームを組んでいる学校もありますので、そういった中で、加東市の子供たちを想像し、どんなパターンが組めるかという例を4つ挙げさせていただきました。

もちろんこれ以外のパターンも考えられます。それから実施種目案については、例えば、これまでから地域の活動として安定してされていたような種目、現在も続いている種目ということと、それから、現在、部活動指導員として、地域人材が平日も土日も含めて入っていただいている部活を、案として考えています。

(委員)

実際、今、中学校で地域の方や外部の指導者が入られているところがやりやすいですね。先ほどの4パターンは、それぞれメリット・デメリットを考えていかないといけないと思います。

(委員長)

最終的にどうするかということとも絡むんですが、例えばパターン②は、平日はまだ部活動が残っているという前提での話ですね。パターン③もそうですね。

シーズンオン・オフがちょっとわかりにくい部分がありますけど、学校部活動があつて、そしてそのオフのところに地域活動という取組ですね。

他のパターンも移行期の部分と両方ミックスてしまっているところが、わかりづらいのかもしれないですね。

最終的に加東市としてどんな姿をイメージするのかというところが、もう少し具体的にわかりやすく書いたほうがいいと思います。ここに例えば、先生方は、地域の大人はどう関わるかというところも入ってくると、もう少しわかりやすいです。

学校の先生方が心配している部分でもあるんですが、基本的に6年度からできることをモデルとして取りかかっていく必要があると思うんですけど、現時点で配置されている部活動指導員の配置も、もしかしたら変わる可能性があるのかもしれないし、その辺りは慎重に考えたほうがいいかもしれないと思います。

(委員)

平日ですと、スポーツ21の活動は、例えば19時から21時の夜間になるんですね。土日か個人かみたいな形なので、中学生が関わるとなると、夜の時間からというのは難しいのかと思います。土日と平日を分けているのは理解できます。休日の地域活動に関わってもらうというのは、まだ可能性はあるとは思うのですけども、実際ちょっと、平日の活動というのはすごく大変だなと思います。

例えば、平日の活動となったときに、仕事を終わられたシニアの方が指導となったときに、経験はあるけど資格はないので、今後、何らかの資格がある人にという話になるでしょうから、資格がなくても大丈夫とかある程度はっきりしないと、人も集められないのではないかでしょう。

(委員長)

ちなみに、各市町で基本的には公認のスポーツ指導者資格とかを取っていることが望ましいですが、今は緊急事態でボランティアでやってくださっている方もいます。

市として責任を持って研修を受けてもらひながら、独自の認定のようなものをして進めていくというところも出ています。

ただ、資格でいくと、最初からハードルが上がって誰も申し出なくなってくる。

当然、市としても指導者研修会などを考えていく必要は絶対にあると思います。保険のように、指導者さんを守るような制度も作らなければならないと思います。

(委員)

来年の総体後からモデル事業実施ということで、現在の案は個人競技が多いので、団体競技も1つ入れてもいいのではないかと思いました。

団体競技になるとどうしても、戦術とか指導者とか、平日は先生が教えて、土日は地域の人が教えるとなるので。

(委員)

教師は、平日と土日と部活動を持っているので、土日は地域の方とか部活指導員の方が見ていただき、平日も見ていただけるなら見ていただくという感じで、ちょっとずつ移行していくというイメージでした。

実際には、平日見ていただける方、その間に空いている方がいないといけない。

教えていただけた方も、見つけないといけないので、移行したらしたで、今まで練習試合等で生徒の中で問題があったときは、どこが責任持って話さないといけないのかとか、いろんなことが、まだ未確定の状態なので、やはり、まずはモデル事業でやってみて、少しずつ移行に向けて、話し合いとか実際にモデルとしてやっている活動で問題が起きたことを、みんなで共有して話をしないといかないと、なかなか難しいと思います。

(委員)

ゴールイメージをはっきり示してから、それに向かって、このイメージ図のような感じで移行していけたらと思います。

やはり難しいのは人材の確保だと思うので、それを一番考えながら、種目を選定する必要があると思います。

ある程度、筋道を立てて、それに沿っていかないと、部活動ごとでパターンが違ったりするのも、学校の先生方からすると何か違和感を覚えたりもすると思うので、いろんな形があっていいとは思いますが、ある程度パターンを決めた方が、先生方はわかりやすいと思います。

(委員)

1点目は、やはり指導者がいるのかというところです。現在、部活動指導員が来てくださっていますが、顧問も自分が指導できないから、自ら地域でされてるところに足を運んで依頼したという話を聞きました。

実際、すべての部活において、来てくださる方がいるのかどうかというところが検討ですね。実施は早めにしたほうがいいんですけど、やはり、集団のチームに関しては、平日こつこつ練習をして、コミュニケーションを取っているからこそ、試合や発表会ができる部分もあるので、いろんなパターンになって、参加の仕方がまちまちになったり、指導する人たちのモチベーションとか、子どもたち自身が何か歯がゆい気持ちになったりするのかあるのかと思います。

2点目は、オフシーズンをつくるというところですが、オフシーズンがある部活もあればない部活もあると思います。この設定が難しいと思いますが、パターン①やパターン②は本当に、わかりやすいです。

(事務局)

種目、また人数によって、いろんな形があって、その中でできるパターンはどれかと考えました。これから先、子供たちの数が減っていく中で、合同チーム等も増えている、地域の方と一緒にになってということで、例えば、学校の枠を取り扱って1つの地域活動として参加するという形も必要になるのではないかという思いもありました。

それから、移行期に関しては、いろいろ混乱を生じる中でも、いろんなパターンを考えていかないといけないということで、まずは案として考えてみました。

(委員長)

パターン①を見ていただきたいのですが、例えば、校区の枠に関係なくとあります。おそらくこのようなパターンもあると思います。

全体的にその種目自体が人数が少なく、オール加東で1つのもの、どこでやるかはちょっと置いといて、少年団のところも含めて3中学校でいけそうなものもあるかもしれないというのがまず1つですね。

エリアをどんなふうにして設定したら子供たちにいいのか、今後やはり種目によっても変わってくると思います。そのあたりと、先ほどから出た指導者の確保について、学校の顧問の先生が一生懸命、自分の繋がりとかを何とか模索してという形は避けるべきだと思います。

持続可能性ということも考えると、そういうのをまさに把握するべく、行政にも期待をしたいし、ここにお集まりの方々以外でも、いろんな地域での動きを把握されていると思いますが、どんなイメージをお持ちでしょうか。

(委員)

今まで学校教育の方での活動が、生涯学習へ移行する形かと思っていて、受け皿となるのなら生涯学習課とは思います。

でも、実際のところ受け皿というと、今、スケジュールを上げていただいたのですが、この狭間にいる生徒にとったら、時期によって全然その形が変わるので、実際のところも、地域展開するのであれば、パターン④みたいな部活動無しという動きで移行する方が良いと思います。

ただそうしたときに、生涯学習課ではグラウンドや体育館を管理しています。活動の場所が、市民の方が利用されるところを利用するという形になると、実際キャバも厳しいと感じます。指導者のこともありますけど、活動する場所をやっぱり考えていかないといけないという印象です。学校教育と協力しながら地域の方と協力していかないと難しいと思います。

(委員)

進める事務局のようなものを、市役所に設置するのか、それとも法人を立ち上げるのか、またそのスポーツの施設管理とかあるところに委託するのか、どこが主になってするかというのを決めると、そこが主導権を握って動けるのではないかでしょうか。

例えば指導員にしても、例えば、スポーツを指導できますかという大きな枠で募集をかけるとしたら、サッカーの指導ができますよという人がくるかもしれないし、新しい違うスポーツなら教えられますよという人も出てくるかもしれない。

だから、主導権を握るところをまず決めたら、ずっと流れていくのではないかと私は思います。委託先に任せれば、新しいスポーツや、全国的に知り合いも多いだろうから、有名な選手を呼んでこられるかもしれない、そういうのも可能性としてはあると思います。

先生方にとって僕らとしても素人なので、そういう専門的なところを使った方がス

ムーズに動くんじゃないかと思います。

(委員長)

パターン①でいけば、地域活動をマネジメントしたり、コーディネートしたり、マッチングしたりする部署、文化スポーツコミュニケーションみたいな部門を作つて、新たに設置するところもあります。

あるいは、当面は教育委員会なり生涯学習課が窓口になって、その差配をしますというところはあるし、例えば、指定管理を受けている業者があるとすれば、そこにマネジメントを任せるというところもあります。

やっぱり、このことを専門に考える人材を雇う必要があるかと思います。

もう1点は、学校の先生方にも聞きたい部分なんですが、平日は今まで通り部活動をやって、休日は地域の人で学校の先生はノータッチでというスタイルを、どのようなとらえをされているのか。

希望する人が、先生ではない形で兼職兼業するという形です。だから、仮に学校の先生に見えて学校の先生じゃない位置付けで、土日はやっている。

でも、平日は今まで通り残すのかどうかっていうところをはっきりしといたら、議論が、進みやすいのではないかと思います。

(委員)

1つは、平日は誰々、休日は誰々という形が、ある意味中途半端だと思います。

子供は、すぐに慣れていく子もあるし、そうでない子もいるとすれば、どっちの言うことを指導者として、支持していくのかというところで混乱が生じる場合もあるだろうと思います。

それから、平日に積み上げてきて、休日にその成果を試しながら、また次の週、その課題を試していくという、その繰り返しを部活はやっている中で、そこの繋がりがうまくできるかなということを考えたら、平日も休日も、学校から切り離してしまうのが一番わかりやすいのかなと思います。

ただ一方で、今、部活動は学校の教育活動の一環という位置付けがあるとするならば、やはり教育活動の一環である以上、我々はその教育活動として、部活をやっているので、平日、教育活動として指導していくのが、我々の職務であるということであれば、なかなかそうもいかないと思います。

(委員)

もう向かっていかなければならぬというのは、この委員会を立ち上げた時点で決まっていますし、いろんな文化活動、運動活動、これはもう先には、我々地域で見ていかないといけなくなるんだと、はっきり話をしていかないといけないと思います。

やはり、次、どれだけ我々の団体の若い世代の人が協力してくれるか、我々委員がああでもないこうでもないと言っても、みんなに力を貸してもらわないと多分進まないと思います。

先には補償問題もついてくることだし、それだけ、真剣に地域のおっちゃん、おばちゃんが、子供のために、何人手擧げてくれるか。

(委員)

いずれにしてもなんんですけど、部活動の意義というか、部活動の目的を、教職員も保護者も地域も、生徒自身も、やっぱり理解して進めていかないといけないと思います。

だから、1週間やったその成果と課題を見つけ出すためのものとしての位置付けで土日や試合のことを言っているのですが、一方で、勝つことや強くなることを期待して、強くできない指導者は駄目というような風潮や、練習の内容がどうのこうと言ったり、

そちら側に部活動の主眼がいってしまうと、平日と土日の連携がうまくいかないのではないかと思っています。

だから、部活動の目的だけでいけば、平日である意味完結するものもあるかなと思っています。

だからそこを学校として、理解を広めていくことが必要かなと思います。

(委員長)

部活動でのいろんな経験があり、教育的に意義があると思って関わり、育てられたのですが、多くの部分っていうのはやはり、平日の成果を、土日という非日常的な場面で発揮するっていうところです。これは文化活動でもそうです。

そういう部活動というものを、学校としてこれから残すのかどうかは、学校教育として絶対考えるべきだと思います。

一方では、これ前提は教員の勤務時間の範囲の中でだと思いますが、その意義を具体化できる活動を残すのか。国も言っていますが、あと数年後には、学校部活動はやっているところもあるし、やっていないところもある。加東市として、学校部活動をどう考えるのかというのは、先生方の意見も聞きながら判断した上で、地域にいかに作るのかというところは、生涯学習課と学校教育課がタッグを組んでやっていく必要があると思います。

それをやっぱり考える上で、先ほど委員が言われた点、イメージをもっと具体的にしていく上での窓口とか団体とか、あるいは人をどう位置付けて作っていくかというところだと思います。

あと、先ほども人材確保とか場所の話とかもありましたが、地域で活動されてる方々の状況を、ここにお集まりの方がすべて把握されているわけでもないので、関係する候補となりうるところに、ヒアリングしたり、アンケートしたりする必要があると、事務局としては考えているようです。

こんなやり方したらもうちょっと積極的に人が手を挙げてくれるのではとか、こんな聞き方していく必要があるのではないかなど、ありますでしょうか。

学校の先生方の中にも、休日にその種目の伝道者として関わってくださる方もおられると思うので、お聞きする必要があると思いますが、何かございますか。

どんなふうにしたら、地域の人にも興味を持ってもらって、候補となる団体や人が、把握できていくかといったところについて、何かご意見がありますか。

(委員)

私が考えられるのは、やはりつながりだと思います。自分が担当する種目の勉強をするために、例えば社会人のチームに入れてもらったりしているので、そういうところでお願いするしか思いつきません。あとは、やはりお金が支払われたら、もっと集まるのではないかなと思います。教員は、ほぼボランティアなので、お金が少しもらえるのなら、自分の時間を犠牲にしてでも、もっと頑張ろうと思う人もいると思います。

(委員長)

そういう意味では、先生方が持っているコネクションを、先生方から把握して、そこに行政としてアプローチするような、また、地域の方が把握してる部分もあろうかと思いますので、公で把握しているものと個人が把握しているものとを全体的にまとめて、そしてアプローチをするのが 1 点かなと思います。

それと、他市では、条件が合えば指導しますと答えられる先生はいるので、地域の人もそうだだと思いますが、その条件がわからなければいけないと思います。

自分の学校じゃなくてもとか、土日のどちらかに 1 人ではなくて複数のメンバーで指

導体制を組んで、好きな種目をやれるとしたら、何か関わってくれる可能性がありますとか、先生の中の可能性を探ると見えてきます。

(委員)

関係者にも知らせていますので、方向性を伝えていけば理解してくれると思います。

(委員長)

保護者への説明ももちろん大事ですが、やはり、地域の方とか関係の方々に、これだけのすごい状況だということを、広報も含めて周知をして、その機運を作らないといけないと思います。そしたらこんな協力できるかもしれないということが出てきます。

(委員)

我々職人は残業すれば残業手当が出ますが、教員公務員は微々たるものしかない。

先ほど委員が言われたように、月曜日から金曜日まで部活を教えて、それを土日も指導する。親は、ついうちの子下手くそだと言うけど、子供は一生懸命やってるので、親が監督やコーチにならなければならないと思う。親は応援団長で、指導者ではない。

働き方改革イコールやっぱり要るもんは要るので、出してあげたら良いと思います。

(委員長)

まとめになるかわかりませんが、今のお話なんかはどんな文化スポーツ活動を中学生とか小学生時期に、大人として提供できるかというところの共通理解を、保護者を含めて、研修とかも含めてやっぱり考えていく必要があると思います。

今回、スケジュールが一応出てきたんですが、今出た意見を含めて、もう少しブラッシュアップしていただいて、皆さんができる一番ベストか、ベターかということを加東市として考えるための資料づくりをぜひお願いしたいと思います。

(委員)

先生方が、もし仮に、学校以外で、土日に教育者じゃなしに指導者として参加されると、報酬をもらうことは可能なんですか。

(事務局)

兼職兼業で部活動指導員として入る場合はもらいます。

地域の1人として、指導するということで、報酬はもらいます。

(委員長)

兼職兼業はもう市町でも、教育長が、校長が許可出したらいけるんですが、働き方も含めて、会社員もそうですけどお金をもらうということは、やはりちゃんと本分のところに影響がないか監督しないといけないので、その時間がプラスアルファどれぐらいかというのは、やっぱり慎重に考えねばならないと思います。土日ずっとフルに出て、本分の方へ悪影響が出ないように。

では事務局に進行をお返しします。

(事務局)

閉会にあたりまして副委員長からご挨拶いただきます。

(副委員長) [閉会挨拶]

(事務局)

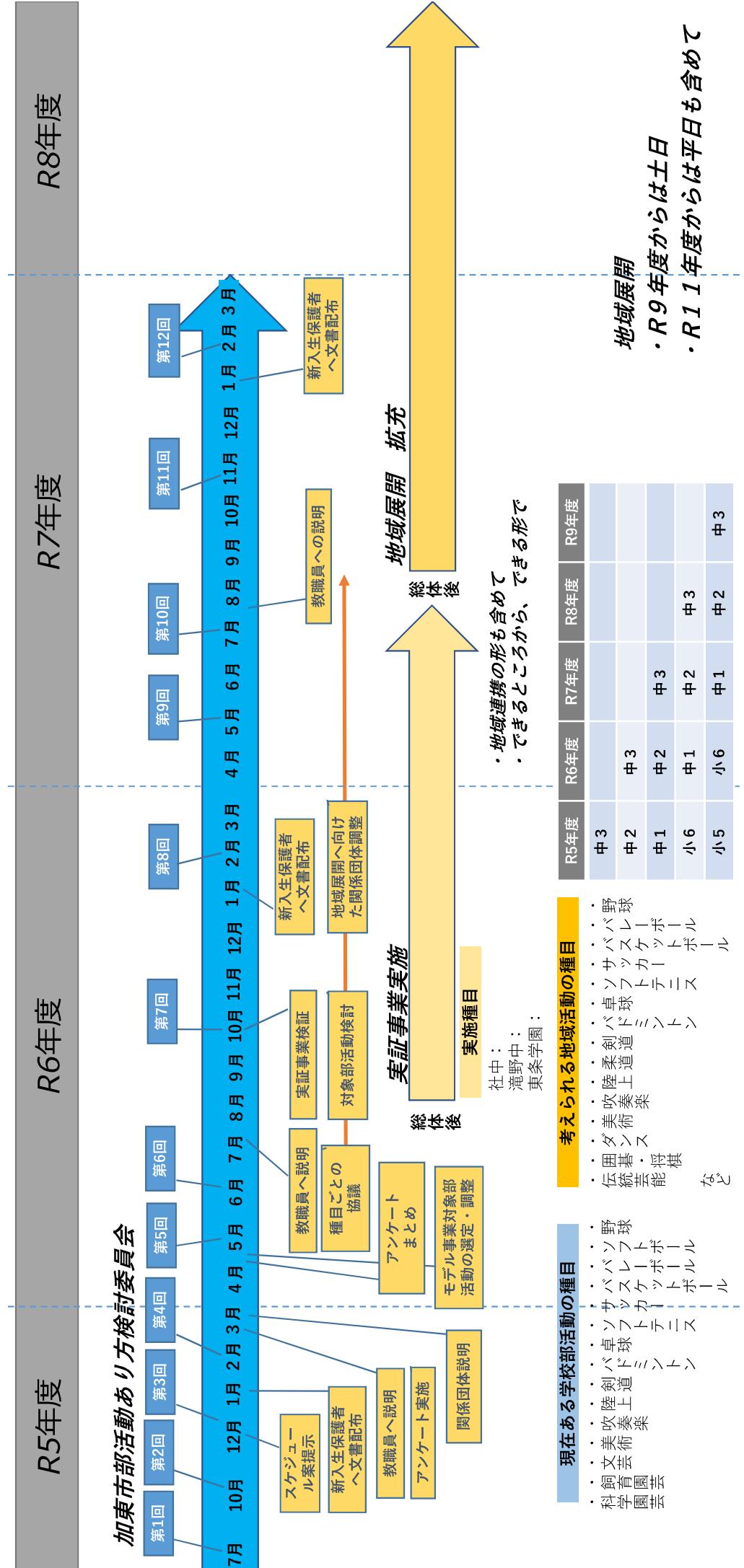
以上を持ちまして、第3回加東市部活動あり方検討委員会を終了します。

遅い時間までありがとうございました。

令和6年2月16日

【資料 2】

加東市における学校部活動の地域展開イメージ（案）【詳細版】



土日における地域展開における実証事業期間における活動パターン【案】について

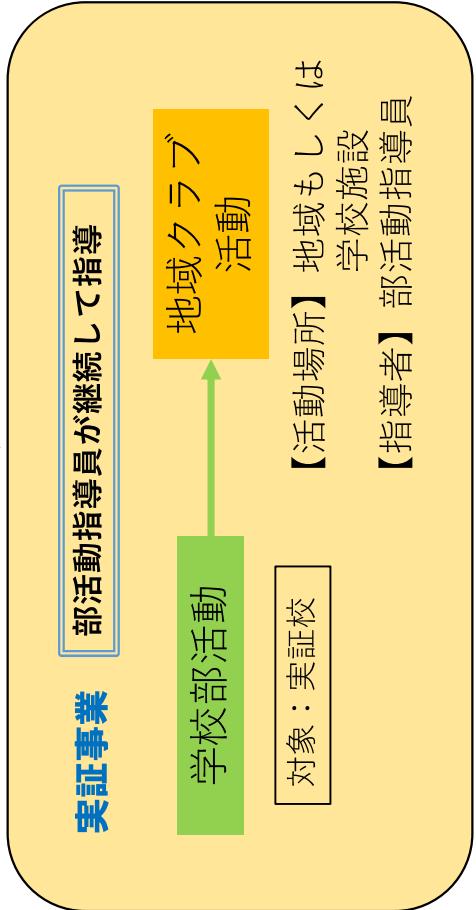
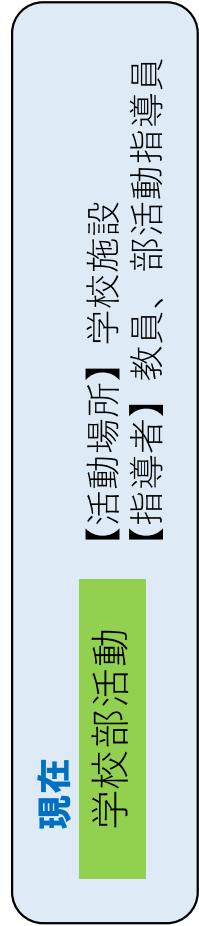
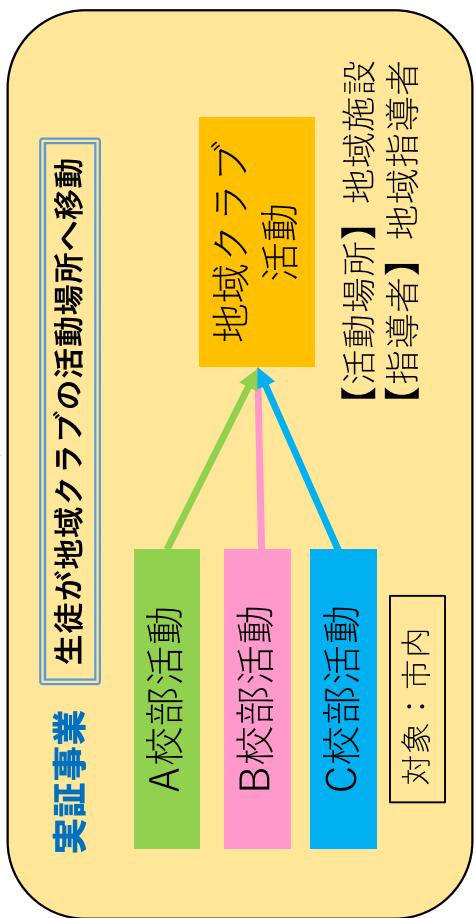
加東市では、令和6年度総体後から実証事業を行う計画です。以下のような実施パターンが考えられ、学校の現状等を考慮し、実施可能な種目を決めていきます。

	パターン	対象	種目	指導者	曜日	送迎	費用	活動場所
①	活動場所へ生徒が移動	市内	地域人材	土日	各自 保護者	なし もあり	なし もあり	地域施設
②	部活動指導員が継続して指導	実証校	部活動指導員	土日	各自	なし	なし	地域施設 もしくは 学校施設
③	地域人材が指導	実証校	地域人材	土日	各自	なし	なし	地域施設 もしくは 学校施設
④	オフシーズンに違う種目に参加	実証校	地域人材	土日	各自	あり	あり	地域施設

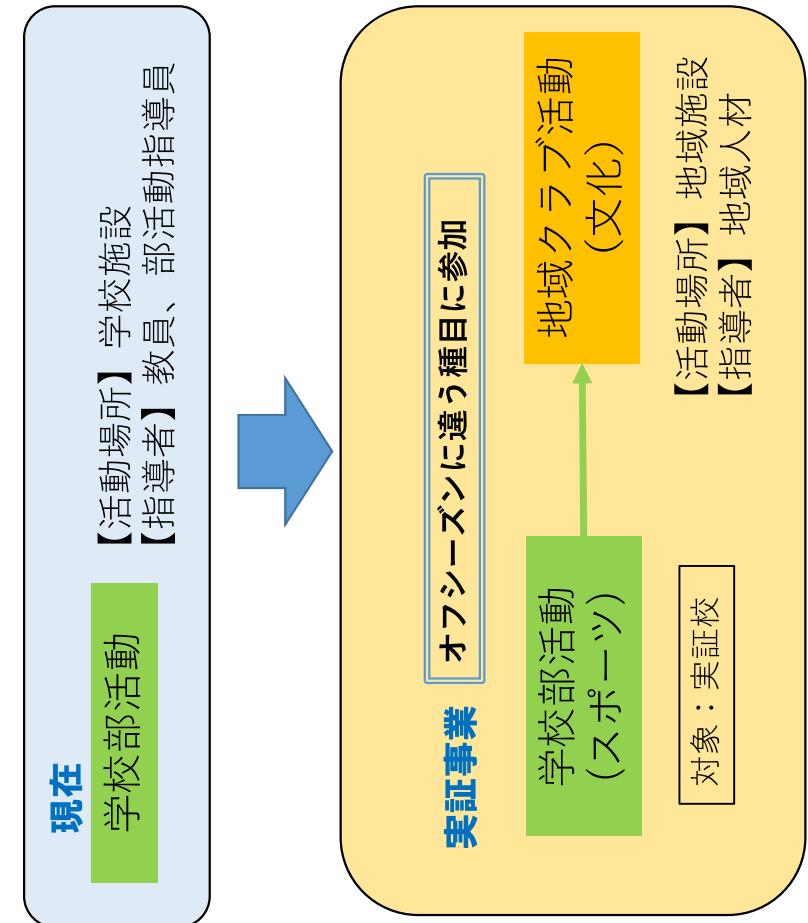
※実証事業期間中は、学校管理下（怪我の際などはスポーツ振興センターでの対応可）で実施する予定です。

実証事業イメージ（パターント①）

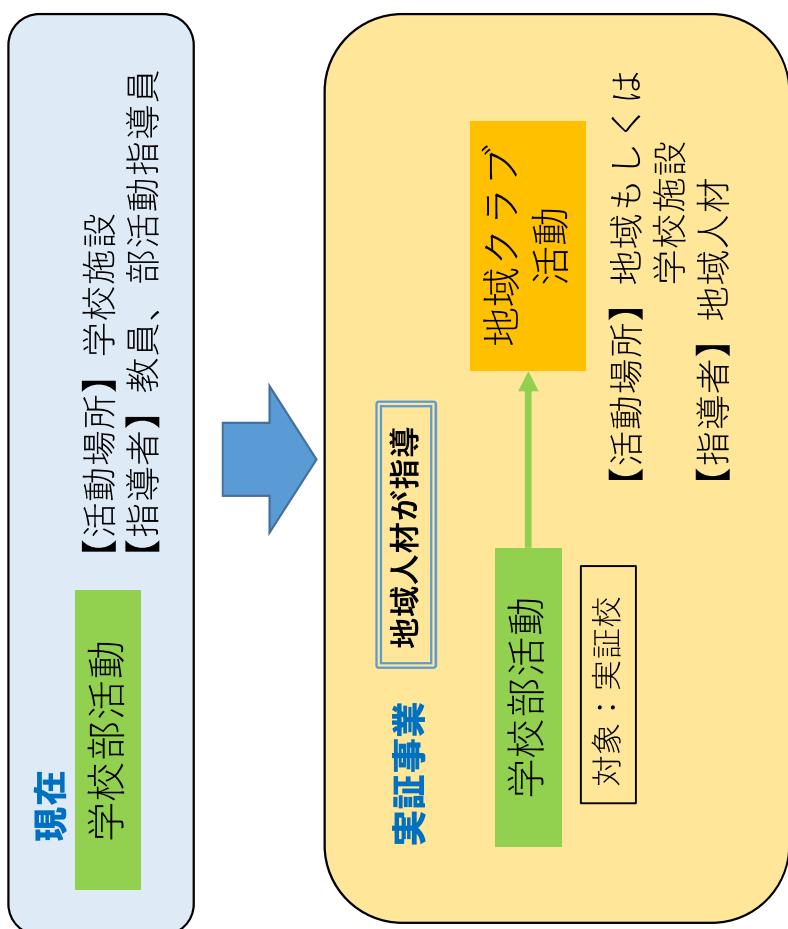
実証事業イメージ（パターント②）



実証事業イメージ (パターント③)



実証事業イメージ (パターント④)



【資料 4】

部活動地域展開に関するアンケート（案）【関係者用】

加東市教育委員會

平素は、学校教育・社会教育活動へ、ご理解・ご協力いただき感謝申し上げます。

さて、これまで「学校教育の一環」として行われてきた中学校的部活動が、大きな転換期を迎えています。

現在、市内では多くの生徒が部活動に入部し活動しています。しかし、少子化が進展する中、種目によっては合同チームで大会等に参加するなど、学校部活動を従前の体制で運営することは難しくなっています。また、専門性に関わらず教員が顧問を務めたり、学校の働き方改革が進んだりする中、これまでの指導体制を継続することは難しい状況にあります。

そこで、国では 技術の向上だけではなく、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、学校と地域が協働して子ども達を育むよう、生徒の活動の場を「地域クラブ活動」等へ展開する新たな形を目指しています。

加東市では、令和6年夏頃から実証事業を実施し、成果と課題について検証し、令和7年夏頃から、**土日における部活動**の地域への展開を少しづつ広げていく予定です。

そこで、現在、本市のスポーツ・文化活動を支えておられる、関係団体の皆様のお考えや現状を教えていただきたい、アンケートを実施します。お忙しい中ですが、ご回答のほどよろしくお願ひいたします。

問1 貴団体の団体名と活動種目をご記入ください。（例：【団体名】●●クラブ 【種目】吹奏楽）

【団体名】【種目】

問2 貢団体の活動曜日や時間についてご記入ください。（あてはまる曜日に○をつけてください）

【活動曜日】 月 火 水 木 金 土 日

【活動時間】 : ~ : ~ : ~ : ~ : ~ : ~ : ~ : ~ : ~ : ~

記入例 【活動曜日】 月 火 水 木 金 土 日

【活動時間】 : ~ 19:00~ : ~ : ~ : ~ 9:00~ 9:00~
: 20:30 : : : 12:00 12:00

問3 貴団体で、土日に生徒が活動する場合、どのような形が可能ですか。（あてはまる番号に○をつけてください）

(1) 団体のメンバーが生徒を指導できる。

指導者の人数： 名 受入れ可能な生徒の人数： 名（おおよそで構いません）

(2) 生徒の指導は難しいが、団体の一員として参加できる。

(3) 生徒が一緒に活動することはできない。

問4 貴団体で、土日に生徒が活動する場合、気になる点はどのようなことですか。

(あてはまる番号に○をつけてください ※複数回答可)

- (1) 指導者の資格が必要なのではないか。
- (2) 指導する際に、怪我等が起きた時の責任の所在はどこになるのか。
- (3) 活動に必要な費用は、生徒が支払うのか。
- (4) 指導者への謝金は支払われるのか。
- (5) 生徒が活動する際に、保険は加入するのか。
- (6) 学校との連携はどのようにしてとるのか。
- (6) その他（具体的に記入願います。）

問5 その他、気になる点等、記入願います。（任意）

ご記入ありがとうございました。

下記の提出先へ、持参もしくは本用紙をFAX等でご提出ください。

記入いただいた内容について、事務局からお問い合わせさせていただく場合があります。

【提出締切】令和6年3月31日（日）

【提出先】加東市教育委員会 学校教育課 TEL：43-0541 FAX：43-0559

生涯学習課 TEL：42-2600 FAX：42-2574

部活動地域展開に関するアンケート（案）【教職員用】

加東市教育委員会

加東市では部活動の地域移行に向け、令和5年7月に「加東市部活動あり方検討委員会」を設置し、地域・保護者・教職員による協議を行い、今後の加東市における部活動の方向性を検討しています。

令和5年度は、学校の部活動の実態や地域の活動団体の現状について確認・共有し、部活動を地域へ展開することを確認しました。

今後、令和6年総体後から、各校1種目程度の部活動で実証事業を実施し、成果と課題について検証し、令和7年総体後から、**土日における部活動**の地域への展開を少しずつ広げていく予定です。

そこで、現在の先生方のお考えや現状を教えていただきたい、アンケートを実施します。お忙しい中ですが、ご回答のほどよろしくお願ひいたします。

問1 性別をお答えください。

男 女 その他

問2 年代をお答えください。

20代 30代 40代 50代 60代

問3 土日のスポーツ活動や文化活動の指導について考え方をお答えください。

- (1) 地域や外部指導者にお願いしたい。
 - (2) 地域指導者として、勤務地以外も含め指導したい。
- (※1と回答した場合、問5へ。2~4と回答した場合、問4へ)

問4 自分が指導する際、指導するスポーツ活動や文化活動の種目をお答えください。

()

問5 部活動が地域展開する際、気になる点を選んでください。

- (1) 生徒のニーズに応じた活動種目があるか。
- (2) 活動場所までの生徒の移動手段。
- (3) 学校と指導者との連携。
- (4) 活動に必要な費用の負担。
- (5) 生徒指導上の問題や事故が起った時の責任の所在。
- (6) その他 ()

問6 その他、気になる点等、記入願います。（任意）

ご記入ありがとうございました。

【提出締切】令和6年3月31日（日）

部活動地域展開に関するアンケート（案）【児童用 5・6年生】

加東市教育委員會

これまで、みなさんが中学校に進学すると、多くの人が学校の部活動へ参加していましたが、これから先は、学校の部活動が大きく変わろうとしています。

指導を学校の先生ではなく、地域や外部の人人がしたり、学校以外の、地域で活動しているクラブ活動などで活動したりすることになります。

加東市では、令和6年夏頃からいろいろな形で活動を行ってみて、令和7年夏頃から、**土日における部活動の形を少しずつ変えていく予定です。**

そこで、皆さんのお考えを聞かせてください。

問 1 あなたは何年生ですか。

5年生 6年生

問2 現在、学校のクラブ活動以外でスポーツや文化活動に参加していますか。

- ①参加している ②参加していない (※①なら問3へ、②なら問5へ)

問3 どのような種目に参加していますか。

種目：

問4 これからやってみたいあるいは続けたいスポーツ活動や文化活動はありますか。

- ①ある ②ない (※①なら問 5へ、②なら問 6へ)

問5 それはどのような種目ですか。

- ①現在やっている種目と同じ種目
 - ②現在やっている種目と違う種目（具体的に：）

問6 その他、意見があれば、記入してください。

For more information about the study, please contact Dr. John Smith at (555) 123-4567 or via email at john.smith@researchinstitute.org.

ご記入ありがとうございました。

【提出締切】令和6年3月31日（日）

部活動地域展開に関するアンケート（案）【生徒用 1(7)・2(8)年生】

加東市教育委員会

現在、皆さんが出動している学校の部活動が、これから先、大きく変わろうとしています。

指導を学校の先生ではなく、地域や外部の人人がしたり、学校以外の、地域で活動しているクラブ活動などで活動したりすることになります。

加東市では、令和6年夏頃から試行し、令和7年夏頃から、**土日における部活動**の形を少しずつ変えていく予定です。

そこで、皆さんの考えを聞かせてください。

問1 あなたは何年生ですか。

1年生（7年生） 2年生（8年生）

問2 現在、学校や地域で、部活動やクラブ活動に参加していますか。

①参加している ②参加していない （※①なら問3へ、②なら問4へ）

問3 どのような種目に参加していますか。

種目：

問4 これからやってみたいあるいは続けたいスポーツ活動や文化活動はありますか。

①ある ②ない （※①なら問5へ、②なら問6へ）

問5 それはどのような種目ですか。

①現在やっている種目と同じ種目

②現在やっている種目と違う種目（具体的に： ）

問6 その他、部活動について、困っていることや改善してほしいことがあれば、記入してください。

ご記入ありがとうございました。

【提出締切】令和6年3月31日（日）

部活動地域展開に関するアンケート（案）【保護者用】

加東市教育委員会

平素は、学校教育へ、ご理解・ご協力いただき感謝申し上げます。

さて、これまで「学校教育の一環」として行われてきた中学校の部活動が、大きな転換期を迎えています。

現在、市内では多くの生徒が部活動に入部し活動しています。しかし、少子化が進展する中、種目によっては合同チームで大会等に参加するなど、学校部活動を従前の体制で運営することは難しくなっています。また、専門性に関わらず教員が顧問を務めたり、学校の働き方改革が進んだりする中、これまでの指導体制を継続することは難しい状況にあります。

そこで、国では 技術の向上だけではなく、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、学校と地域が協働して子ども達を育むよう、生徒の活動の場を「地域クラブ活動」等へ展開する新たな形を目指しています。

加東市では、令和 6 年夏頃から実証事業を実施し、成果と課題について検証し、令和 7 年夏頃から、**土日における部活動**の地域への展開を少しずつ広げていく予定です。

そこで、保護者の皆様のお考えや現状を教えていただきたく、アンケートを実施します。お忙しい中ですが、ご回答のほどよろしくお願いいたします。

問 1 お子様は何年生ですか。

() 年生

問 2 現在、学校の部活動以外でスポーツ活動や文化活動に参加されていますか。

- ①参加している ②参加していない (※①なら問 3 へ、②なら問 5 へ)

問 3 どのような種目に参加していますか。

()

問 4 これまで、学校以外の活動に参加させて課題に感じたことがあれば選んでください。（複数回答可）

- ①活動場所への移動や送迎が負担。
- ②学業との両立が難しい。
- ③活動経費の負担。
- ④練習日数や練習時間が少ない。
- ⑤指導者との人間関係。
- ⑥他校の生徒との人間関係。
- ⑦保護者同士の人間関係。
- ⑧特になし。
- ⑨その他 ()

問5 今後、土日の部活動が学校の活動ではなくなった場合、地域で行われるスポーツや文化活動に参加させますか。

- ①参加させる ②参加させない (※①なら問6へ、②なら問8へ)

問6 やらせてみたい種目は何ですか。

- ①現在の部活動や地域クラブと同じ種目（具体的に）
②現在の部活動や地域クラブと違う種目（具体的に）
③子どもに任せる。
④その他（具体的に）

問7 土日の地域スポーツや文化活動に期待することは何ですか。

- ①より専門的な指導が受けられる。
②自分のレベルに合った活動を選択できる。
③学校の部活動にない新たな種目が選択できる。
④ほかの学校の生徒と交流できる。
⑤ほかの学校の生徒と競い合える。
⑥多世代の地域住民との交流ができる。
⑦教員の負担軽減につながる。
⑧その他（具体的に）

問8 その他、気になる点等、記入願います。（任意）

ご記入ありがとうございました。

【提出締切】令和6年3月31日（日）

(設置)

第1条 加東市立中学校及び義務教育学校における部活動の段階的な地域移行について検討するため、
加東市部活動あり方検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について所掌する。

- (1) 部活動の現状と課題に関すること。
- (2) 部活動のあり方にに関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 体育・スポーツ又は文化に関する団体の代表
- (3) 学校関係者
- (4) 保護者の代表
- (5) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から3年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により選任する。

3 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長の指名により選任する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長(その職務を代理する副委員長を含む。)が定まっていないときは、教育長が招集する。

2 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 委員長は、会議の運営上特に必要があると認める場合は、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(部会)

第7条 委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、加東市教育委員会事務局教育振興部生涯学習課及びこども未来部学校教育課において処理する。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

この告示は、令和5年4月1日から施行する。

中学校部活動の地域移行について

平素は学校教育にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

中学校部活動については、これまで教員を中心に指導してきましたが、生徒数の減少や教員の働き方等により持続可能な部活動指導が困難な状況の中、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、今後は地域移行を図ることが国から示されました。加東市では、令和5年7月に「加東市部活動あり方検討委員会」を設置し、加東市の子どもや地域の現状に応じた地域移行の形を検討しています。

令和6年度は、部活動指導員や部活動外部指導者を増員し、指導の充実を図るとともに、一部の部活動で土日等の休業日の活動においてモデル事業を展開していきます。令和7年度は、土日等の休業日の活動における地域展開を、さらに拡充させる予定です。なお、現在の中学校・義務教育学校後期課程の生徒に大きな影響がないよう計画します。

学校と地域との連携・協働により部活動を進めていくにあたり、地域や保護者の方々におかれましても、指導者として一緒に関わっていただくことが考えられます。その際には、ぜひご協力願います。

なお、今後、新たに国から方針が出される際は、順次対応してまいります。

記

1 今後のスケジュール予定

年度	加東市の動き	部活動の動き
令和5年度	「加東市部活動あり方検討委員会」を設置 ・今後の方向性や成果・課題等について検討・協議 ・モデル事業検証	現状維持
令和6年度		モデル事業
令和7年度	・今後の方向性や成果・課題等について検討・協議	地域展開

※令和7年度から、土日等休業日の部活動を段階的に地域へ移行する。

2 指導の充実に向けて

加東市では、教員に加え、部活動指導員（技術指導だけではなく、顧問と同様に引率や単独での指導が可能）を11名、部活動外部指導者（主に技術指導を中心）を2名配置〔R6.1現在〕し、指導にあたっています。令和6年度においては、部活動指導員の数を増員する予定です。

また、今後は部員の人数により合同チームによる運営等、多様な運営の形が考えられます。